
HITACHI エンタープライズサーバ EP8000 シリーズ マシンコード更新手順

3581LT0 オートローダ Firmware

THE-3581-*17(5U モデル) バージョン: i114
THE-3581-*23(5U モデル) バージョン: i114
THE-3581-L*8(2U モデル) バージョン: 3.00

目次

1. 対象装置
 2. Firmware ダウンロードに関する注意
 3. ダウンロード時間
 4. Firmware ダウンロード後のシステム・リポートについて
 5. 事前 Firmware レビジョン確認
 6. Firmware 自己解凍ファイルのダウンロード
 7. システムへの Firmware コピー
 8. Firmware ダウンロード方法
 9. ダウンロード 後の Firmware レビジョンの確認
 10. 終了作業
-

はじめに

本手順書は、3581LT0 オートローダのメディア・チェンジャ(ロボット)部の Firmware を最新レビジョンに更新するために提供されています。

お客様御自身で最新の Firmware に更新することをお勧めします。

また、3581LT0 オートローダのドライブ部の Firmware を最新レビジョンに更新するためには別途作業が必要となります。詳しくは、Web サイトを御参照下さい。

1.対象装置

THE-3581-H17	(3581 LTO Ultrium1 オートローダ(HVD))
THE-3581-L17	(3581 LTO Ultrium1 オートローダ(LVD))
THE-3581-H23	(3581 LTO Ultrium2 オートローダ(HVD))
THE-3581-L23	(3581 LTO Ultrium2 オートローダ(LVD))
THE-3581-L28	(3581 LTO Ultrium2 2U オートローダ(LVD))
THE-3581-L38	(3581 LTO Ultrium3 2U オートローダ(LVD))

2.Firmware ダウンロードに関する注意

- (1) 本作業中は 3581LTO オートローダに対するホストからのアクセス厳禁です。Firmware ダウンロードがホストアクセスと競合すると Firmware ダウンロードが失敗(ハングアップ)し、回復不能となることがあります。このため、本作業開始前に NetBackup 等のバックアップ・アプリケーションのデーモンを停止して下さい。(“ 5. 事前 Firmware レビジョン確認 ”を参照して下さい。)
- (2) 本作業には、3581LTO オートローダのロボット・スペシャルファイル(smc*)が必要です。(“ 5. 事前 Firmware レビジョン確認 ”を参照して下さい。)
上記(1)と合わせて、NetBackup 等のバックアップ・アプリケーション専用ロボット・スペシャルファイルが “ 使用可能 ” の場合は、これを “ 定義済 ” にして下さい。
NetBackup 等のバックアップ・アプリケーション運用上、ロボット・スペシャルファイルを削除している場合は、実施後にこれを作成して下さい。
- (3) Firmware ファイルをシステムに ftp する場合、必ずバイナリで ftp して下さい。ASCII にて ftp したファイルをドライブにダウンロードすると、Firmware ダウンロードが失敗(ハングアップ)し、回復不能となることがあります。
- (4) テープ・ドライブにテープ媒体が挿入されている状態でダウンロードしないで下さい。Firmware ダウンロードの実施前には、ドライブからテープ媒体を取外しておいて下さい。
- (5) ダウンロード中は、3581 LTO オートローダのオペレータ・パネルを操作しないで下さい。
- (6) Firmware ダウンロード中に電源を off しないで下さい。オートローダに損傷を与え、交換を余儀なくされる場合があります。
- (7) システムへは、必ず解凍した Firmware ファイルをコピーして下さい。Firmware 自己解凍ファイルは必ず WindowsPC にて解凍し、拡張子が “.fmr” (THE-3581-*17、THE-3581-*23)または “.fbi” (THE-3581-L*8)の Firmware ファイルをシステムへコピーして下さい。

3. Firmware ダウンロード時間

一般的な Firmware ダウンロード時間は 0.2 hr/オートローダです。

4.Firmware ダウンロード後のシステム・リポートについて

システム・リポート、当該 LTO オートローダの P.OFF/ON 共に不要です。

5. 事前 Firmware レビジョン確認

既に最新レビジョンの Firmware である場合は作業不要です。以下に Firmware レビジョンのチェック方法を示します。

【注意 1】本作業中は 3581LT0 オートローダに対するホストからのアクセス厳禁です。
Firmware ダウンロードがホストアクセスと競合すると Firmware ダウンロードが失敗(ハングアップ)し、回復不能となることがあります。NetBackup 等のバックアップ・アプリケーションのデーモンが停止しているか、下記【注意 2】実施前に再度確認して下さい。尚、NetBackup に関しては以下のコマンドを実行することでデーモンの停止を確認可能です。

【例】 /usr/opensv/volmgr/bin/vmps 何も出力されないことを確認して下さい。

【注意 2】本作業には、3581LT0 オートローダのロボット・スペシャルファイル(smc*)が必要です。

NetBackup 等のバックアップ・アプリケーション専用ロボット・スペシャルファイルが " 使用可能 " の場合は、これを " 定義済 " にして下さい。尚、NetBackup に関しては以下のコマンドを実行することで " 定義済 " にすることができます。

【例】 # rmdev l ovpass*
 ovpass* : NetBackup 専用ロボット・スペシャルファイル名

NetBackup 等のバックアップ・アプリケーション運用上、ロボット・スペシャルファイルを削除している場合は、実施後にこれを作成して下さい。尚、3581LT0 オートローダのロボット・スペシャルファイル(smc*)は、下記コマンドで作成されます。

【入力例】

```
# mkdev    c tape    t 3581    s scsi    p scsi* -w scsi_id,lun
scsi*        : 3581LT0 オートローダが接続されている上位 SCSI アダプタ
              のスペシャルファイル名。
scsi_id      : 3581LT0 オートローダのメディア・チェンジャ SCSI ID。
lun          : 3581LT0 オートローダの lun。 " 0 " を指定願います。
```

【出力例】

smc* 使用可能 作成された smc*が " 使用可能 " であることを確認して下さい。

当該 3581LT0 オートローダのロボット・スペシャルファイル(smc*)に対して以下のコマンドを実行します。

【例】 # lscfg -vl smc0

上記コマンドを実行すると、以下の出力結果が得られます。 " Device Specific.(FW)" を御確認下さい。

【出力例】

DEVICE	LOCATION	DESCRIPTION
smc0	30-70-00-1,0	IBM 3581 Tape Medium Changer
Manufacturer.....IBM		
Machine Type and Model.....ULT3581-TA		
Serial Number.....IBM7805396		
Device Specific.(FW)..... <u>I109</u>		

6. Firmware 自己解凍ファイルのダウンロード

- (1) WindowsPC(1)へ Firmware 自己解凍ファイルを受信するためのワーク・ディレクトリを準備して下さい。
(ex. C:¥download)

- (2) 下の表を参照して装置に対応する Firmware 自己解凍ファイルを Web からダウンロードして、ワーク・ディレクトリへ格納して下さい。

装置型名	Firmware 自己解凍ファイル名	解凍後 Firmware ファイル名
THE-3581-*17	****.EXE	****.fmr
THE-3581-*23		
THE-3581-L*8	35812U-*_**.EXE	35812U-*_**.fbi

ファイル名の****又は*_**は Firmware のバージョン

- (3) ワーク・ディレクトリに格納した Firmware 自己解凍ファイルをダブル・クリックして解凍してください。解凍すると、Firmware 自己解凍ファイルと同じ名前で、拡張子が ".fmr" (THE-3581-*17、THE-3581-*23) または ".fbi" (THE-3581-L*8) の Firmware ファイルが作成されます。

例をあげると、i114.EXE という Firmware 自己解凍ファイルを解凍すると、i114.fmr という Firmware ファイルが作成されます。同じように、35812U-3_00.EXE という Firmware 自己解凍ファイルを解凍すると、35812U-3_00.fbi という Firmware ファイルが作成されます。

1 WindowsPC の OS は Windows2000(Build 2195 SP4)以降を推奨します。

7. システムへの Firmware コピー

- (1) システムの /tmp ディレクトリに項番 6 で解凍した Firmware ファイルをコピーして下さい。

【注意 1】Firmware ファイルをシステムに ftp する場合、必ずバイナリで ftp して下さい。

ASCII にて ftp したファイルをドライブにダウンロードすると、Firmware ダウンロードが失敗(ハングアップ)し、回復不能となることがあります。

【注意 2】システムへは、必ず解凍した Firmware ファイルをコピーして下さい。

Firmware 自己解凍ファイルは必ず WindowsPC にて解凍し、拡張子が ".fmr" (THE-3581-*17、THE-3581-*23) または ".fbi" (THE-3581-L*8) の Firmware ファイルをコピーして下さい。

8. Firmware ダウンロード方法

(1) 下記コマンドを実行し、3581LT0 オートローダのロボット・スペシャルファイル(smc*)が”使用可能”であることを確認します。

```
【例】# lsdev Cc tape
```

(2)(1)で”定義済”である場合、下記コマンドを実行し、3581LT0 オートローダのロボット・スペシャルファイル(smc*)を”使用可能”にします。

```
【例】# mkdev I smc0
```

(3)(2)を実施した場合、再度(1)を実施します。

(4) tapeutil コマンドを実行し、ロボット・スペシャルファイル(smc*)に対して Firmware ダウンロードを実施します。

```
【例】# tapeutil -f /dev/smc0 ucode /tmp/i109.fmr  
Downloading microcode...  
Updating VPD data...
```

【失敗例 1】存在しないロボット・スペシャルファイル(smc*)を指定した場合、下記メッセージが表示されます。ロボット・スペシャルファイル(smc*)を再確認して下さい。

```
# tapeutil -f /dev/smc20 ucode /tmp/i109.fmr  
Open failed: No such file or directory
```

【失敗例 2】他のプロセスで当該ロボットを使用している場合、下記メッセージが表示されます。ホストからアクセスされてないか再度確認し、これが停止した後にダウンロードを実施して下さい。

```
# tapeutil -f /dev/smc0 ucode /tmp/i109.fmr  
Open failed: Resource temporarily unavailable
```

【注意】 Firmware ダウンロード中に絶対に電源を off しないで下さい。オートローダに損傷を与え、交換を余儀なくされる場合があります。

(5) ”#” プロンプトが表示され、Download が正常終了していることを確認します。

9. ダウンロード 後の Firmware レビジョンの確認

“ 5. 事前 Firmware レビジョン確認 ” と同一の手順を実施します。

10. 終了作業

(1) 下記コマンドを実行して、システムから Firmware ファイルを削除します。

【例】# rm /tmp/i109.fmr

(2) “ 8.Firmware ダウンロード方法 ” の中で、ダウンロード前の 3581LT0 オートローダのロボット・スペシャルファイル(smc*)が ” 定義済 ” であった場合、または削除されていた場合は、下記コマンドを実行して ” 定義済 ” にします。

【例】# rmdev | smc0

(3) “ 8.事前 Firmware レビジョン確認 ” の中で、NetBackup 等のバックアップ・アプリケーション専用ロボット・スペシャルファイルが ” 使用可能 ” であった場合は、これを ” 使用可能 ” にします。尚、NetBackup に関しては以下のコマンドを実行することで ” 使用可能 ” にすることができます。

【例】# mkdev | ovpass*

ovpass* : NetBackup 専用ロボット・スペシャルファイル名

(4) NetBackup 等のバックアップ・アプリケーション運用上、ロボット・スペシャルファイル(smc*)を削除していた場合は、今後の Firmware レビジョン更新のためスペシャルファイルを削除しないでおくことをお勧めします。

(5) 項番 6 で WindowsPC に作成したワーク・ディレクトリを削除します。
